



令和6年11月25日発行

学校だより

第10号

江戸川区立松江第三中学校

〈 教育 目 標 〉

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

～憶えていますか～

校長 小澤 託

みなさんは、ワンガリ・マータイさんという方のお名前を憶えていますか？

夏休み前の第4号の学校だよりで、ちょっとだけ話題にしました。ケニア出身のノーベル平和賞受賞者で、日本語の“MOTTAINAI(もったいない)”という言葉の世界に広め、その言葉だけではなくその思いや精神(物に感謝する、物を大切にする、物を作った人にも感謝して大事に使うなど)も世界に広めた方です。

改めて、マータイさんの話していた内容を確認してみようと思い、絵本を手にとって読んでみました。

お米の一粒一粒には、作った人の苦労と思いが宿っているからこそ、
最後の一粒までありがたくいただく。
お魚は、慈しみの心をもって、頭、内臓、骨、皮まで、余すところなくいただく。

「おさがり」は、「まだ十分に使えるもの」を活かす日本人のリユースの慣習。
着物は、仕立て直して親から子へ、子から孫へ、着つづける究極のリサイクル。
壊れた傘や割れたお茶碗を直して、もう一度使う。



昔は、傘やお茶碗を直す職人がいたが、その職人や伝統の技も消えようとしている現実。一日に数百トン単位で廃棄されるお弁当や食料品。まだ着ることができなのにタンスの奥に畳んだままの服。日常的に見過ごされてしまう点けっぱなしの電気やテレビなどなど…。

ちょっとした節約や工夫で使い続けることのできる物やそのありがたみ、その文化を守り続けてきた日本の伝統と風習。世界に目を向ければ、食べることさえままならない人や最低限の生活も保障されない子どもたち。様々な視点から、“もったいない”を取り上げています。

ちょっとしたことかもしれませんが、日々の生活の中の“ちょっとしたこと”に気を遣ったり、大事にしたりすることが素敵だなあ、とマータイさんは思ったのでしょうか…。

では、今の皆さんの生活はどうですか。

物を大事に使っていますか？ まだ使えるのに簡単に捨てたりしていませんか？

食べ終わったお茶碗に米粒は残っていませんか？ すぐに捨てたりしている食べ物はありますか？

電気やテレビなどを点けっぱなしにしていませんか？

食べることや日々の生活もままならない人がいることに目を背けていませんか？

日々の自分の生活を“ちょっと”見直すことが大事だと私は思いました。

【世界子どもの日】

11月20日（水）は「子どもの権利条約」の採択を記念した世界子どもの日でした。

今年日本が子どもの権利条約を^{ひじゅん}批准*してから30年の節目とのことです。*(^{ひじゅん}批准とは、国際条約や協定などを正式に承認し、自国法として効力を持たせることを指します)日本も含め世界中で、貧困や虐待などに直面し悩み苦しんでいる子どもたちがいます。子どもを取り巻く大人や社会が影響を与えていることは容易に想像できます。

生徒の皆さんの中で、学校（社会）生活などを含め、何かに悩んだり苦しんだりしていることがあったら、先生やカウンセラーに相談してみてください。すぐに解決できなくても、話すことで少しでも気持ちが軽くなると思います。

ユニセフは、世界子どもの日に合わせて「世界子供白書2024」を発表しました。

その報告によると、22年以降異常気象などによる休校を経験する生徒が増え、50年には00年代と比べ最大で約8倍の子どもが熱波にさらされると予測しております。また、5年以上続く紛争のリスクの高い地域に住む子どもの数は、激減すると報告しております。2050年だと、皆さんがまさに社会を動かし、支える年代になっているはずで、未来の自分たちが生きる社会を想像し、今からできることをするのも大事かもしれません。

～心に残る詩～

谷川俊太郎さんという有名な詩人が亡くなりました。中学の時だったような気がします。教科書に載っていて、国語の授業の時に何度も読み、今でも何となく記憶に残っています。強烈な印象はないのに、頭の隅に残っていて、心がほっこりする詩。読むと何となく光景が浮かんでしまう詩。

言葉って大事です…

カムチャツカの若者が きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は 朝もやの中でバスを待っている
ニューヨークの少女が ほほえみながら寝がえりをうつとき
ローマの少年は 柱頭を染める朝陽にウィンクする
この地球では いつもどこかで朝がはじまっている

ぼくらは朝をリレーするのだ
経度から経度へと
そうしていれば交替で地球を守る

眠る前のひととき耳をすますと どこか遠くで目覚まし時計のベルが鳴ってる
それはあなたの送った朝を 誰かがしっかりと受けとめた証拠なのだ

谷川俊太郎 「朝のリレー」